

ステロイドはアトピーを治す薬ではない。

「病気を治すのは自分の免疫」匿名希望

18 歳

2017年3月15日

私は赤ちゃんの頃からアトピーでした。食物アレルギーもあり、除去食を続けていたので、皮膚の状態は目立って悪いわけではありませんでした。しかし、皮膚は乾燥していて、痒みは常にありました。特に膝の裏とお尻の痒みがひどく、寝ている間に掻きむしり、傷ができ、色素沈着していました。汗をかいた後、お風呂上がりなどは全身が痒くなりました。

高校2年生の夏、なぜか今まで痒みを感じたことがない首が痒くなり、保湿剤を塗っても改善されず、悪化をたどりました。痒みで勉強どころではない状態でしたので、皮膚科に行きました。ステロイド軟膏が処方されました。医師からステロイドを使って皮膚を良い状態にし、状態が良くなれば、痒みもなくなるという説明がありました。これまでステロイド軟膏は塗ったことがありませんでした。ステロイドを塗ったら、一瞬で痒みから解放されました。しかし、2週間もすると、前よりももっと辛い痒みに襲われました。そしてまたステロイドを塗りました。ステロイドはアトピーを治す薬ではないと身をもって実感しました。

松本医院を訪れたのは高校2年生の2月でした。「病気は誰が治すんだ？」と先生から問いかけられ、答えられなかった私に「自分だ！」と叱咤激励をいただきました。そして、松本先生を信じて、頑張ってみようと思いました。しばらくすると、猛烈な痒みに襲われ、浸出液が出てきて驚きました。こんな状態は初めてでした。私はステロイドを塗った期間はごくわずかでしたが、喘息もありましたので、抗ヒスタミン剤などの薬は長年服用していました。松本先生が仰った通り、リバウンドが起こり、半年間は辛かったです。就寝は首にカーゼを巻き、両手に木綿の手袋を付け外れないよう紐でくくりつけました。半年が過ぎた頃、嘘のように痒みがなくなっていることを実感しました。色素沈着していた皮膚の黒ずみも次第に薄れてきました。何より痒みを感じない日々を送れていることが嬉しかったです。最初は半信半疑でしたが、松本医院で完治した方がいるから自分も治ると信じました。おかげで高校3年生の後半は勉強に集中することができ、希望の大学に進学することが決まりました。松本先生、本当にありがとうございました。これからもよろしく願いいたします。

